

参勤交代の必携書

— 道中記 と 道中図 —

江戸時代、それぞれの大名は参勤交代といって大勢の家臣を率いて一年ごとに国元と江戸とを往復していました。

松江藩松平家では、主に3月から5月の間に、松江から米子へ行き、中国山地を越えて津山、姫路に至る出雲街道を通り、東海道を通過して江戸へ向かうルートで参勤交代を行っています。約30日の長い旅でした。その道中の必要事項を記載した「道中記」、通行する街道筋を描いた「道中図」を展示します。

この「道中記」と「道中図」は、近年松江藩土をルーツに持つ方から松江市に寄贈していただいた資料です。「道中記」と「道中図」は、これまで複数の写本を確認していたものでした。本資料を詳しく見たところ、松江藩の御小人方で藩の御用のために作成されたものであり、原本である可能性が極めて高いものだとわかりました。

松江歴史館では、寄贈していただいた資料を精査し、その価値を見極めて展示を行います。



木箱

道中記

道中図



木箱 裏

道中記と道中図

○木箱

表銘：道中記 並 図

裏銘：安永九子十月成就

32.8×19.0×12.2(cm)

○道中記

表紙銘：弐冊之内 道中記 原田氏

(但し、「弐冊之内」は「御用」を消した上に、

「原田氏」は「小人方」を消した上に記載あり)

終項：安永九庚子仲秋 道中吟味役 神田助右衛門編

御小人奉行 近藤庄蔵

29.7×16.0(全体：29.7×2560.0)

○道中図

表紙銘：御用 道中図

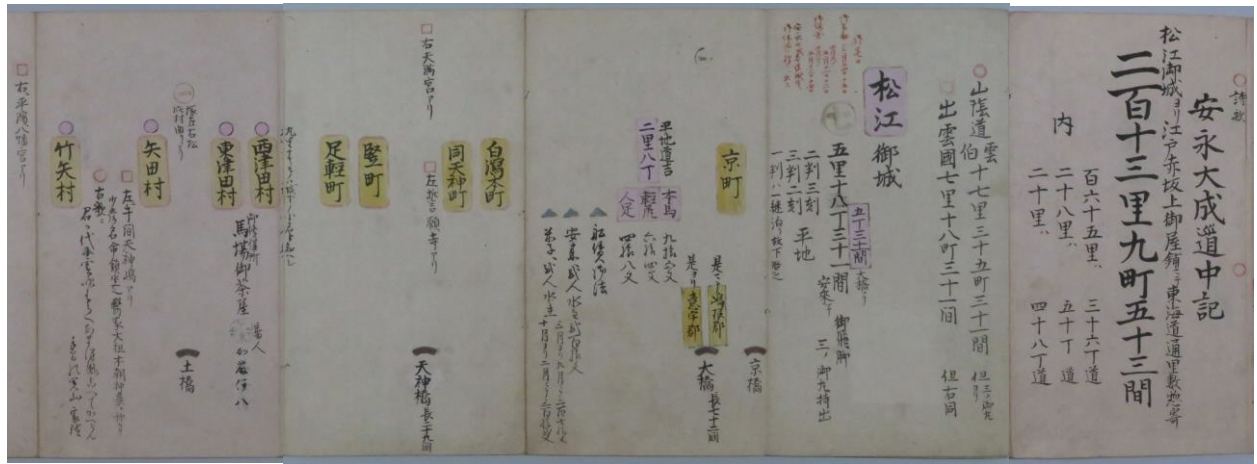
(題箋)原田氏

終項：安永十年辛丑三月

神田助右衛門編

西山久三郎画

29.0×16.0(全体：29.7×1056.0)

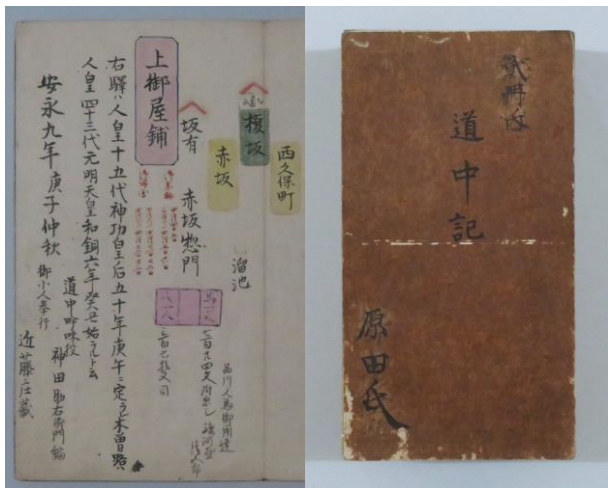


道中記

松江藩による参勤交代の長い道中、たくさんの宿場で休憩、宿泊し、様々な名所や旧跡のそばを通る。

「道中記」には、宿場で休息する本陣の主人の氏名、それぞれの宿場までの距離や輸送に必要な料金、道中に見える古刹や神社、古城の説明や名所にちなんだ詠った和歌などを記す。

巻末には、安永9年(1780)8月に道中吟味役であった神田助右衛門の手により編纂したことを示す記載がある。



道中図

松江から江戸までの街道筋を上空から望んだ鳥瞰図で、山々が折り重なった山深い街道、海岸や湖畔を飛ぶ鳥たちの群れなど誇張して描いている。絵図の中には、宿場や一里塚、名所や旧跡などのランドマークも記す。また、絵図中に引いた朱線で東西を示し、絵巻の「折しろ」を折ることで正確な方角を出している。

巻末には、編纂した神田助右衛門と描いた西山久三郎の名、安永10年(1781)3月の記載がある。

